

第30回「大津市図書館協議会」の会議結果

- 開催日時 令和5年8月4日（金）13時30分～15時30分まで
- 開催場所 大津市立図書館 読書室
- 出席者 委員5人・事務局9人・計14人
- 傍聴者 無
- 次第
 1. 開会
 2. 市民憲章斉唱
 3. 挨拶（今井会長）
 4. 挨拶（図書館長）
 5. 議事
 - (1) 令和5年度事業概要
 - (2) 「大津市図書館事業計画」にかかる令和4年度事業評価について
 6. 報告事項
 7. 閉会

- 会議の概要（発言内容については要旨を記載）

◎議事

〔議題1 令和5年度事業計画〕

・事務局説明

委員 令和4年度は電子図書も含め149万冊、令和3年度は約150万冊ということでしたが、魅力ある発信を続けていくことで、例えば何万冊くらいを目標値として掲げていくのか。現時点がピークなのか、コロナ禍で減少していたが、魅力的なものを加えることでさらに回復、増加する可能性があるだろうし、どこまで目標を上げていかれるのでしょうか。今後の見通しや方向性はどうですか。

事務局 令和2年度はコロナ禍で臨時休館もあり、外出制限や催しの中止もある中、来館者、貸出冊数とも減少しました。令和3年度も社会情勢的には、安定しない中、学校園への団体貸出やセット貸出事業の開始など、本を届けるサービスに力を入れたこともあり、平成31年度に近い貸出冊数に回復しました。令和4年度も、引き続き団体貸出に加え児童館等への団体貸出も始めたり、催しもこれまでの手法を変更したり、規模を縮小するなど感染対策を講じる中で、図書館利用や読書推進の契機となる事業の展開を実施してきたところですが、令和3年度よりも減少した結果となりました。減少の要因は、これまでコロナの感染拡大防止のため、外出や旅行に行けなかったところが緩和され、宿泊やレジャーへ行動を移された方が多かった、いろんな活動がで

きるようになった。制限がなくなり、いろんな選択肢がある中で、普段できない活動を選択された方が増えたのではと分析しております。このような状況の中、図書館としましては、普段の生活において身近に利用できる施設であり、本の魅力や楽しさなど、どんどん発信していかなければならないと思っています。図書館来館の契機となる催しやイベント、日頃より定例的に行っているおはなし会や読み聞かせなど、様々なサービスについて情報発信に努めていきたいと考えております。この7月からTwitterを開始し、新刊案内やおはなし会のお知らせ、図書館でこんな催しがありましたなど、積極的に発信しています。始めたばかりなので手ごたえはこれからです。令和5年度の目標値は令和4年度の実績が下がったことから、まずは令和4年度の目標値を目指していきます。今後は、さらに貸出冊数が伸びていくよう様々な角度からサービスの充実に努めていきます。

委員 冊数も増やしつつ、図書館の果たす役割を地道に発信して行ってください。

事務局 ホームページだけでなく広報のプレスリリースで発信するなど、いろんな形で市民の皆さんの目や耳に届くように努めていきます。

委員 エントランスに掲出してある案内図の玄関の向きが入ってきた時点と違っている。どういう狙いですか。

事務局 今、エントランスにある図面は、過去に作成していた図書館のパンフレットの平面図を引用して作成したのになります。利用者からも、わかりやすくしてほしいという声があったため現在改修作業中です。

委員 障がい者サービスは、いきなり行っても適応されるのか。障がい者手帳を持ってる人にしか、障がい者サービスはしていないのですか。病気とか加齢に伴って字が読みにくいとか言う人に音で聞いてもらう資料やお知らせ、広報おおつの音声版は宣伝していないのですか。障がい者団体に入っていない人はどうなりますか。

事務局 広報おおつの件ですが、音で聞ける広報おおつがあることを図書館の方からご案内しているかどうかということでしょうか。広くはホームページでご案内させていただいております。また、カウンターや電話などで問合せがあれば情報提供しています。しかしながら、様々なバリアフリー資料があるということがまだまだ周知不足であることから、今後は様々な形態での情報発信を進めていくことで、必要な方に必要な情報が届くよう努めていきます。

委員 一般の方からは、問い合わせがあれば応えるということですね。図書館の方にも1部送られているはずですが。加齢や他の病気で字が読みにくい人にも、音を聞く広報があることをお知らせして、利用していただけるようにしてください。

事務局 字が読みにくい人にも、音で聞く広報があることをお知らせして、ご利用いただくことが可能であることも含め、周知するようにいたします。

事務局 特別貸出は郵送していますが、手帳を提示して先に登録していただくこととなっています。

委員 それはご希望の方、郵送してくださいという方がおられたら郵送するという
ことですか。

事務局 はい。特別貸出のルールは身体障がい者の方、手帳をお持ちで市内にお住まいの方
となり、事前に手続きが必要となります。

〔議題2 「大津市図書館事業計画」にかかる令和4年度事業評価について〕

① 市民の学びに応える図書館

・事務局説明

委員 貸出冊数は目標値に達成していないが、各館の取組の成果を見ると、市民ニーズに
対応したサービスの展開が行われている。蔵書冊数はある程度コントロールできる。
貸出冊数は、ほぼ達成されており、利用者の読書要求に応じていくための工夫を各館
実施しており成果が上がっている。

委員 市民ニーズに応えられるよう新しい資料を揃えたり、読書推進に繋がる様々な事
業も展開され努力が伺える。

委員 旧来の図書館としての在り方から見ると努力されている。他の図書館を見て回っ
たら、学生が勉強をしていて席が埋まっている。大津には図書館を借りて帰らずにその
場で勉強できる環境がないのか。勉強できる環境を用意してほしい。

委員 館の中で調べる学習環境はありますか。和邇館、北館はどうですか。

事務局 本館はこの部屋、読書室で借りた本を持ち込んで学習できます。また、2階には参
考資料室があり行政資料や郷土資料等資料を活用して調査研究するスペースがあり
ます。

事務局 北館は北部地域文化センターの中にあり、勉強できるスペースはほとんどないで
す。

事務局 和邇館は2階の集会室がありますが、新聞雑誌を読んでいただく、本を読んでいた
だくスペースくらいしかありません。学生が勉強できるスペースの提供は難しいで
す。

委員 現状で難しいのはわかります。欲を言えば電源、wi-fi がありパソコンが持ち込め
る場所が欲しいが、大津の図書館にはない。市民として、学生が勉強できる環境をど
こに訴えていったらいいのかというと、勉強するのだから図書館ということになっ
てしまう。他県に行くと飲食店が入っていて勉強できるスペースが用意されている。
学生が勉強できるスペースを確保できないでしょうか。

事務局 本館には読書室があります。こちらは、図書館の本を使って学習したり、持ち込ん
だ本を使って勉強する形でご利用いただいております。

委員 平日の利用者が少ないときに、調べ物があって司書さんをお願いしたら、沢山の資
料を出してもらい大変感動した。貸出冊数は目標値に至っていないが、図書館の司書の
皆さんの対応からいくと、A⁺（エーダッシュ）でもよい。

委員 資料の収集等につきましては、リクエストをはじめ市民の読書要求にこたえるとともに、新鮮な蔵書構成を保つための見直し、蔵書冊数を確保されるよう努力をされておられますので、評価できます。除籍作業につきましても、広く市民の方々にリサイクル本の提供ですとか再活用をしておられる。また、多様化する利用者については、今後も職員が知恵を出して頂いて利用者のニーズに応えていただきたい。各館とも貸出冊数の目標値には達していませんが、今後、広報活動等を広く周知に努め、市民の学びに応えられるようにされたい。協議会ではB評価とさせていただきます。

② だれもが利用できる図書館

・事務局説明

委員 来館者数はあまり重要視しない、事業回数が豊かでいろいろやっているのだからこちらを重要視すればどうですか。誰もが利用できる図書館という目標に対する指標として、来館者数は適切な指標でしょうか。来館者数とは違う指標を採ったほうが良いのではないのでしょうか。事業を行った数をもっと評価してはどうでしょうか。

委員 和邇図書館を利用していますが、子育て支援の施設で団体貸出を利用している。幼稚園、保育園の幼児は、本を読みたいから借りるのではなく、ミッケル号が来たから本を借りるというようになっています。令和4年度の施設の利用者数を市に報告したが、近年の利用者数はこれまでの3分の1になった。同じ建物にある老人福祉センターには人がいっぱいいる。利用者数が多いのは素晴らしい。これからのことを考えると、高齢者サービスを充実させるのがいいでしょう。

委員 どのような指標がふさわしいのか悩ましい。しかし、非常に努力されている。

委員 移動図書館車の更新、バリアフリー図書等の収集、さらには電子図書の利用促進等で利用者をはじめ非来館者へのサービスが充実をしてきていることが評価できる。来館者数の増加も今後期待できる。高齢者向けのコーナー、おはなし会の開催、高齢者施設への出向等のサービスが好評であったことなど、積極的な良い取り組みをされている。生涯学習を実施する教育機関として、すべての市民の学びに対し、気軽に利用しやすい図書館に向けた取り組みを実施できている。A評価でまとめたい。

③ 魅力あふれるまちづくりを支える図書館

・事務局説明

委員 令和6年の大河ドラマ「光る君へ」の放送に向け、今、石山寺が注目を集めている。また、アニメ「ちはやふる」の舞台である近江神宮もあり関心を集めている。歴史があり文化財も多く、とても豊かなまちですから、これらを図書館がバックアップする、これから先も熱くなる、この資源を支えてほしいです。そして、市民の知りたいに応じていく。期待しています。

委員 それぞれの地域の良さを生かした取り組みというところが評価できます。

委員 市関係所管課及び公共機関と連携した展示については達成率が高く、図書資料だけでなく様々な情報を関連づけて情報を市民に提供できたと評価できます。行政資料や地域資料を有効活用した取り組みが進んでいることから、引き続き資料収集や連携展示等の企画を積極的に行い、魅力あるまちづくりの支援に努めていくよう事業展開に努めていただきたい。A評価とさせていただきます。

④ 子どもの育ちを支援する図書館

・事務局説明

委員 中学校の現場ではこの項目について大変お世話になり感謝しております。本年度の全国学力学習状況調査では中学校の国語については、滋賀県は全国ワースト2位。生涯にわたって本に触れたり、豊かな心を育むために読書生活を送ればいわけですから、学力調査が求めているものと比較するのはナンセンスだが、子どもたちは言葉で表現したり、書き表したりする力が全国に比べて少し低めであるのは確か。そういうことを知っていただいて、サポートしていただけるようなことがあればと思います。子どもたちの国語の力を高めようと思うと、本がたくさんある環境とか本に身近に触れる機会が多いことが大事。こんなことができれば、興味や関心のある本を手にするんじゃないかなというアイデアとして、『読み比べ3点セット』を作ってほしい。3冊の本を読み比べることで違いを見極めるなど、本を読むことで世界が大きく広がっていきますよ、という提案をしてほしい。批判力を育ててほしい。

委員 私は乳幼児対象支援施設をやっているので絵本に興味があります。地域文庫に来る子どもたちも、未就園児ですので、絵本に触れる機会が多く、絵本は子どものすこやかな育ちを支えるものだ実感しています。以前、ヤングアダルトの本をそろえようと思ったが図書館の所蔵が少なかったように思う。この点が少し弱いのではと思う。小学校高学年から中学生が読んで楽しい本を活用し、楽しさを宣伝すれば子どもたちがもっと本を読むようになるのではないのでしょうか。

委員 乳幼児期に本に触れあう機会が多ければ多いほど、中学になって本を読む時間が無くなってきても、小さいときに培ったものが残っていて、また本に触れるようになるもの。各図書館とも子ども向けの本を充実させている、また、読書推進を図る良い取り組みをしておられる。国語力も高まるでしょう。

委員 お母さんたちにも常に、伝えていますが、幼稚園で実施している絵本の貸し出しも、読んで貰えなかったということがあります。子どもを膝にのせて読みきかせをするということで、子どもたちが喜び、それが子どもたちの「心のごちそう」になる。園としても保護者にその良さを伝えたいと思っています。図書館でやっていることが幼稚園にもつながっていくと思っています。団体貸出で園に本を50冊配本してもらえるのは、すごくありがたいです。また、その本の選び方も参考になり幼稚園職員の資質向上にも役立っています。今どきの言葉でいうと「本のサブスク」ですねと言

うと響いたりします。これからも幼稚園の保護者の方に、絵本の良さを伝えていきたい。

委員 他の委員からの意見として「一部の子どもたちは利用できている。市の図書館としてすべての学校と連携してほしい」とありますが、図書館としては、すべての学校園と連携する体制はあるが、例えば、団体貸出やセット貸出など、希望する学校に対し行う取組であることから、学校のニーズによるところである。図書館では、それ以上のことは難しいと思われま。

委員 全体として、設定されている指標はほぼ目標値を上回っています。学校園への団体貸出冊数、及び児童サービス事業を関係機関との連携の中で、学校園数も多い中、積極的に事業展開できたものと評価します。乳幼児期から本に親しむことは、読書習慣の形成にとって大切な時期であることから、より一層普及啓発に努められたい。児童図書貸出冊数については、目標値を上げたことにより達成できなかった館もあるが、全体として目標値を上回っており、次代を担う子どもの成長を支援するため、本を通して様々な取組みを実施され、その成果があったものと評価できる。これらのことからA評価とさせていただきます。

⑤ 市民とともにつくる図書館

・事務局説明

委員 他の2館より充実している北図書館ですが、その秘訣は何ですか。

事務局 北館は職員が少ない。その中で、図書の整理などは、ボランティアさんと協議し、コロナ禍でも活動できるよう、館内の利用制限がある中、ボランティア活動の可否を自身で判断していただき、できる範囲の中で活動をすすめた。

委員 中学校でも生徒によるボランティア活動を盛んにするようにしていて、地域のボランティアの方もその活動に加わっていただいている。ボランティア活動を引き出していくには信頼関係が大切。北図書館は長い年月の中でボランティアさんと信頼関係を構築し活動されている。

委員 市民とともにつくる図書館、素敵なこと。努力されていると思います。

委員 本館で本の修理ボランティアに応募したが、その途端にコロナになって活動が休止となった。ボランティアを休止した本館と和邇館、一方、北館は今までの信頼関係もあるが、ボランティアさん自身の判断で、自分たちで気を付けてやりましようといところまでいかれた。信頼関係はずっと構築されたものですけれど、4年度についていえば土台が違うのに同じように評価するのはおかしいのではないかと感じる。

委員 図書館のサークルは息が長い、20年も30年も継続されている。そこに意義があると思います。子育て支援の取組みに図書館の方がこられてお話をされていたが、人手不足の中、地域活動に出て行っておはなし会をされるのも市民と一緒につくる活動なのかなと思ったら、いいなと思いました。

委員 事業者数について、活動団体の数え方ですが、団体は人数にかかわらず1なのでし
ょうか。

事務局 個人登録は1人で「1」、団体登録は1団体で「1」としています。

委員 課題発見と解決支援につながる展示につきましては様々な分野からテーマを決め
ての取り組みが評価できる。指標である図書館事業の協働事業者数を見ると達成で
きている館と出来ていない館がある。ボランティア活動は、各館の利用状況による密
集状況など、感染対策を講じる中において、活動できる環境が異なることから、一律
に活動を再開することは難しい状況であった。しかしながら、コロナ禍でも自館の良
さを生かしながら、活動を継続していた館もあることから、全館で工夫した組み
みが展開出来たのではないかと思われる。今後の活動においては、引き続き信頼関係を
密にしながら事業展開に努め、市民とともに作る図書館を目指して努力されたい。
協議会としての評価は、Bとします。